

ハンド浦添市長杯

ハンドボールの第16回浦添市長杯争奪第47回県中学校新人大会最終日は13日、浦添市のANAスポーツパーク浦添で行われ、神森の男女が優勝した。男女優勝チームは、第15回春の全国中学校



男女で優勝した神森のメンバーら13日、浦添市のANAスポーツパーク浦添

神森 男女制す

選抜大会(3月25、26日、富山県)に派遣される。女子決勝は延長戦までもつれ込んだが、神森が20-19で美東に競り勝ち、3年ぶり12度目の栄冠に輝いた。男子は神森が32-23で仲西を圧倒し、3年連続18度目の頂点に立った。男子の昭和薬科は3位決定戦で浦西に敗れたものの、県内大会で初の4位と健闘した。

▽男子準決勝	神 森 35	美 東 18	浦 西 25
	仲 西 29	浦 西 13	神 森 15
▽同3位決定戦	神 森 32	浦 西 23	美 東 15
▽女子準決勝	神 森 20	美 東 15	浦 西 13
	仲 西 19	浦 西 8	神 森 7
▽同決勝	神 森 32	浦 西 23	美 東 15
▽女子準決勝	神 森 14	浦 西 11	美 東 8
	仲 西 15	浦 西 8	神 森 7
▽同決勝	神 森 15	浦 西 8	美 東 7
	仲 西 11	浦 西 8	神 森 7

神 森	21	延長	9
仲 西	11	延長	11
浦 西	19	延長	16
美 東	15	延長	11

味方の連係からポストシューターを決める神森の名前に

延長後半残りわずか、速攻で駆け出した神森の主将比嘉菜々美は「フーマークはいつも止められてしまうから自信がなかった」という不安をはねのけ、相手GKをよく見て20点を獲得。勝負どころの2点リードで流れを引き寄せた。最後は美東のミスも誘って逃げ切ると、選手らは大喜びで抱き合った。

序盤で先行したもののミスや退場で引き離せない。後半、打たせてはいけないと警戒していた美東の比嘉聖の連続得点を許して、接戦に持ち込まれた。「逃げ切りたい」という弱気が選手に伝わってしまった。監督が未熟だった」と多和田真尚監督。攻撃も連係が途切れタフなシュートが続き、逆転を許したが、尻上がりに調子を上げていたGK仲松歩花と吉田新奈の「相手のコースを見極めていた」という好セーブが歓声も呼び起こし、踏みとどまった。

大接戦の延長戦で存在感を見せたのが、メンバーの負傷で急ぎよセンターを任せられた1年の金城彩佳。クロスの流れから引っかけのロングシュート。自身の初得点で18点を奪うと、残る2発は2年の伊禮姫雅と比嘉が決めた。

美東は中学から競技を始めた選手が多く、勝負どころで神森の経験値が上回ったのも勝因。全国への挑戦権を得たが、主将の比嘉は「チームがまとまるまでに時間がかかったことが試合にも出てしまった。練習から一丸となり、県代表として恥じない結果を残すために鍛え直したい」と、真剣な表情のままだった。(嘉陽拓也)

ハイライト

大接戦も経験値で上回る 女子



チーム小柄も俊敏さで圧倒 男子、主導権渡さず

○プレヤーの多くが160センチと小粒な神森男子だが、高めの守備で素早くプレスを掛けてリズムをつかむと、技術のある主将の洲鎌史成や儀間颯真らが立て続けに点を奪い、仲西に主導権を渡さず勝ちきった。

夏から足腰を鍛えてきただけあって、速攻の出足や相手攻撃をつぶすプレスも速かった。警戒される洲鎌はステップシュートなどを見せつつ、味方のアシストでも貢献。3得点を挙げた1年の小波津周希を「流れを変える活躍をしてくれ」と後輩の育成にも気を配る。



決勝で8得点を挙げて活躍した神森の儀間颯真

県選抜 2年連続全国へ 水球U17九州地区予選

水球の第6回全日本ジュニア(U17)選手権かしわぎき潮風カップ九州地区予選は11、12の両日、鹿児島